

平成26年度事業報告書

財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、子どもたちの心身の健全な育成と、食文化の発展に貢献する公益事業を実施しました。

その概要につきまして、以下のとおりご報告いたします。

<公益目的事業>

- (1) 公1. 陸上競技支援事業
- (2) 公2. 自然体験活動支援事業
- (3) 公3. 食文化振興事業
- (4) 公4. 発明記念館運営事業
- (5) 共通. 青少年の健全育成を目的とする支援事業

<収益事業等>

- (1) 収1. 施設賃貸および物販等の業務受託

<公益目的事業>

■公1. 陸上競技支援事業

「未来ある子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせたい」という日本陸上競技連盟の考えに賛同し、走る楽しさ、仲間とふれあう喜びを広めることを目的に、全国の小学生を対象とする陸上競技大会を支援しています。

1. 小学生陸上競技大会等の後援事業

(1) 第30回全国小学生陸上競技交流大会の事業後援

子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせること、スポーツを通じた友情を育んでもらうことを目的に、全国の小学5年、6年生を対象とする陸上競技大会の都道府県代表を決定する予選大会と、決勝大会を後援しました。

昭和60年に「第1回全国少年少女リレー競走大会」としてスタートした本大会は、毎年、約15万人の選手、指導者が参加しています。過去の本大会出場者の中から、末續慎吾選手（第8回大会出場）、高平慎士選手（第12回大会出場）が、平成20年北京オリンピック男子4×100mリレーで銅メダルを獲得するなど、国際舞台で活躍する選手を多く輩出しています。

また、平成24年のロンドンオリンピックでは、陸上競技日本代表選手46名の内、11名が小学生時代に本大会に出場しており、本大会は、いまや子どもたちにとって目標となる大会として定着し、日本陸上競技界の底辺の拡大に貢献しています。

【主催・後援】 主催：公益財団法人日本陸上競技連盟 後援：文部科学省他

【実施日】 ① 予選大会 平成26年6月～7月
② 決勝大会 平成26年8月22日(金)～23日(土)

【場所】 ① 予選大会 全国47都道府県の競技場
② 決勝大会 横浜・日産スタジアム

【参加者数】 約150,000人（選手、指導者、関係者）

【内容】 47都道府県の予選大会において、選手に入賞メダルや参加賞を贈呈。

決勝大会では、陸上競技の「走・跳・投」の3要素である100m走、80m

ハードル走、走幅跳、走高跳、ソフトボール投げ、4×100m リレーなどが実施され、その模様はNHK 教育（Eテレ）にて全国録画放送されました。

【事業費】 105,837,291 円

(2) 第17回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会の事業後援

全国の小学5年、6年生を対象とし、47都道府県の代表チームと、開催地大阪から推薦された3チームを加えた計50チームが参加するクロスカントリー大会と、前日に開催された研修会を後援しました。

本大会は、発育途上の子どもたちが、身体に負担をかけない正しい長距離走を理解し、走法、呼吸法やトレーニング方法などを学ぶことを目的に、平成10年度からスタートしました。

本大会の第1回大会出場者の佐藤悠基選手が長距離の代表として、平成24年開催のロンドンオリンピックに出場しました。

【主催・後援】 主催：公益財団法人日本陸上競技連盟 後援：文部科学省他

【実施日】 平成26年12月13日(土)～14日(日)

【場所】 池田市民文化会館、万博記念公園内特設コース（大阪府吹田市）

【参加者数】 769人（一般タイムトライアル参加者も含む）

【内容】 ① 池田市民文化会館において開講式、研修会を開催

講師：公益財団法人日本陸上競技連盟 普及育成部

井筒 紫乃 氏、大畑 好美 氏

ゲスト：日清食品グループ陸上競技部

白水 昭興 監督

諏訪 利成 コーチ

（平成16年アテネオリンピック男子マラソン代表）

研修内容：・小学生の練習によるからだへの負担について

・ジュニアアスリートの食事の基本について

・さまざまな運動をすることの大切さについて

② 万博記念公園特設コースにおいて本大会を開催

クロスカントリーリレー（1区間1.5km×6区間 男女交互のリレー）

友好タイムトライアル、一般参加タイムトライアル

【事業費】 18,615,899 円

(3) 全国小学生陸上競技交流大会優秀選手研修会の実施

将来の有望選手としての意識・意欲づけと、その指導者に発育発達に応じた一貫指導の重要性を理解してもらうため、第30回全国小学生陸上競技交流大会で優秀な成績をおさめた選手を対象に研修会を実施しました。

【実施日】 平成26年11月1日(土)～2日(日)

【場所】 横浜・日産スタジアム、横浜市スポーツ医科学センター 他

【参加者数】 選手・指導者 計32名

【ゲスト講師】 桐生 祥秀 選手、福島 千里 選手

【研修内容】 体力測定、栄養研修会、トップアスリートを迎えてのディスカッション

【事業費】 第30回全国小学生陸上競技大会事業費に含む

2. 少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」贈呈

子どもたちの心身の健全な育成には優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えから、小学生の指導者を顕彰する少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」を、47都道府県から選出された指導者47名に贈呈し、今後の一層の活躍を期待して表彰しました。

【実施日】 平成26年8月23日(土)

【事業費】 第30回全国小学生陸上競技大会事業費を含む

3. スポーツ全般におけるジュニアアスリート育成の後援事業

本事業は、青少年の心身の健全な育成を図るという目的のもと、公益財団法人日本オリンピック委員会に加盟する各競技団体を対象とし、全国的な組織またはそれに準ずる団体の活動を通じて、ジュニアアスリート育成を支援します。

平成26年度は、公益財団法人日本テニス協会が主催する男子ジュニア育成プログラムに後援しました。国内開催の国際大会を含む、全国大会、全国大会予選を含む地方大会から成績優秀者を選抜して行うトップジュニアキャンプ、ナショナルジュニアキャンプ、海外遠征等を支援し、子どもたちが夢を実現する活動を応援します。

【参加者数】・トップジュニアキャンプ 選手・指導者 76名(年代別に計3回開催)

・ナショナルジュニアキャンプ 選手・指導者 91名(年9回開催)

・海外遠征・合宿 選手・指導者 91名(全米OPENジュニア大会を含む18回)

【事業費】 16,200,000円

■公2. 自然体験活動支援事業

「自然とのふれあいが子どもたちの創造力を豊かにする」という創設者 安藤百福の考えのもと、財団設立以来、青少年の心身の健全な育成を目的に、子どもたちの「自活力」を育む自然体験活動の更なる普及と活性化に取り組んできました。

また、平成22年5月、長野県小諸市にわが国初の専門施設「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター(略称:安藤百福センター)」を設立し、子どもたちを身近な自然に案内する指導者を育てる「上級指導者」の養成と指導カリキュラムの研究・開発を行っています。

1. 自然体験活動支援事業「第12回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の実施

「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」では、自然体験活動の企画案を公募し、応募総数194件の中から、ユニークで創造性に富んだ企画を立案した50団体を選考し、実施支援金各10万円を助成しました。

更に、助成した団体から提出された活動報告書を審査し、学校部門には文部科学大臣奨励賞と優秀賞を、一般部門には安藤百福賞と優秀賞を選考し表彰するとともに、各団体のユニークな活動を発表し、他団体の活動の参考としていただくことで、自然体験活動の活性化を図ります。

なお、今回助成した団体の活動には、延べ約24,500人が参加しました。

【後援】 文部科学省、横浜市、横浜市教育委員会、NPO法人自然体験活動推進協議会

【表彰団体】

◆ 学校部門

文部科学大臣奨励賞(副賞:100万円)

団体名 : 上越市立大手町小学校(新潟県)

企画名 : とことん青田川～体験活動と言語活動をつなげて学びを深める～

優秀賞（副賞：50万円）

- ① 団体名：京都市立醍醐西小学校（京都府）
企画名：自然に親しみ・自然を理解し・自然を大切にし・生きる力を高めよう
～全校たてわりグループで自然体験活動しよう～
- ② 団体名：たつの市立新宮小学校3年生（兵庫県）
企画名：わくわく！ドキドキ☆しんぐう自ぜん研究所
～命のつぶやきを見つけた～

◆ 一般部門

安藤百福賞（副賞：100万円）

- 団体名：無人島チャレンジ実行委員会（愛媛県）
企画名：御五神島（おいつかみじま）・無人島体験事業

優秀賞（副賞：50万円）

- 団体名：柏の葉サイエンスエデュケーションラボ（千葉県）
企画名：理科の修学旅行

◆ トム・ソーヤー奨励賞（学校・一般部門共通）

優秀賞に及ばないものの、更なる発展が期待できる企画に贈呈。

- ① 団体名：森の自然体験楽校 スキー楽校 青森自然塾（青森県）
企画名：青森県日本海から太平洋までの横断青森五名山大冒険
- ② 団体名：特定非営利活動法人 公益ふるさと創り鶴岡（山形県）
企画名：こども山伏修行体験

【表彰式】開催日：平成27年1月31日(土) 安藤百福発明記念館 5階ホール
来賓：泉潤一氏（文部科学省 スポーツ・青少年局 青少年課長）
柏崎誠氏（横浜市 副市長）
講演会：荻原健司氏（スキーノルディック複合 五輪 金メダリスト）
テーマ「ふるさとの雪山からオリンピックへ」

【事業費】14,182,383円

2. 自然体験活動指導者養成事業

安藤百福センターを拠点に、自然体験活動の指導者を育てる「上級指導者」養成をはじめ、自然体験活動の底辺の拡大と更なる活性化を図る中心的な役割を果たしています。

【事業内容】

- ① 自然体験活動における上級指導者養成事業
- ② 自然体験活動及びアウトドア全般に係わる専門家等の養成・講習事業
- ③ 大学、大学院、専門学校等の自然・野外・観光・農業に係わる講義演習
- ④ 自然体験活動に係わる企業研修をはじめとする各種研修事業
- ⑤ 指導カリキュラムの研究・開発、紀要の発刊

【平成26年度 主な事業】

- ① 上級指導者養成のための研修会の共催
NPO 法人自然体験活動推進協議会や公益社団法人日本環境教育フォーラム、公益社団法人日本山岳ガイド協会、国立青少年教育振興機構などが養成、認定する指導者研修を支援しました。
平成26年度は、新たに570名が上級指導者に認定されました。

② 第4回浅間大学院生セミナーの主催

開催日 : 平成26年5月17日(土)～19日(月)

参加者 : 学生21名、教員6名、オブザーバー2名 計29名

内容 : 幅広い自然教育や環境教育の専門家を目指す学生たちの交流や、各大学の講義内容を情報交換することで、相互に研鑽、発展を図ることを目的に、各大学教員による講義、学生による研究発表、野外体験活動などを実施しました。

あわせて、昨年度の第3回本セミナーで、最優秀大学院生として米国ワイオミング州の自然学校「ティートンサイエンススクール」に短期留学した大学院生2名の報告会も行いました。

最終日には、学生の研究発表をもとに、「ティートンサイエンススクール」への短期留学者2名の発表がありました。

文系、理系問わず幅広い研究者が集まり、議論を行う意義が再確認され、本セミナー参加者が日本の環境教育をリードしていくことを期待しています。

③ 自然学校新入職員研修会の主催

開催日 : 平成27年1月13日(火)～15日(木) <東京会場>

平成27年3月3日(火)～5日(木) <京都会場>

参加者 : 30名

内容 : 全国の自然学校に所属する1～2年目の新入職員を対象として、自然体験原論や環境教育論など教育に携わるものとしての基礎知識の習得や、コミュニケーションスキルの習得を目的に研修会を開催しました。

【事業費】 134,477,118円

3. ロングトレイルの普及、振興

子どもたちの自然体験の主な活動場所は、山、川、海や身近な森林やキャンプ場が中心であり、どのフィールドでも基本は「歩く」ことであると考えています。当財団は、独自に4コース(全長22.8km)の安藤百福センタートレイルを運営、管理するとともに、日本ロングトレイル協議会と連携し、自然とふれあう機会を創造するため、ロングトレイルの普及、振興を図りました。

◆「第2回ロングトレイルシンポジウム」の共催

開催日 : 平成27年2月21日(土)

参加者数 : 121名

後援 : 観光庁、長野県、長野県教育委員会、小諸市 他

来賓 : 長野県知事 阿部 守一氏

特別講演 : 「御嶽山の噴火から学ぶもの」

東京大学 名誉教授 荒牧 重雄氏 (安藤百福センター 顧問)

講演① : 「フットパスに見る英国のロングトレイル」

フットパス研究家 節田 志乃氏 (英国エセックス州在住)

講演② : 「海外と日本のロングトレイルの歩き方」

「PAPER SKY」編集長 ルーカス B.B氏

報告① : 「『山の日』の制定とロングトレイル」

公益社団法人 日本山岳ガイド協会 理事長 磯野 剛太氏

報告②：「オープンする白山白川郷トレイルについて」
白山白川郷トレイルクラブ 山田 俊行 氏
(トヨタ白川郷自然学校校長補佐・事務局長)

報告③：「新幹線開通とロングトレイル」
NPO 法人 信越トレイルクラブ 事務局長 木村 宏 氏
(信州いいやま観光局次長 兼 観光交流センター所長)

内容：アウトドアズと自然体験活動の普及・振興を教育と産業、さらには地域観光の活性化という視点と、産官学の連携を視野に、ロングトレイルの今後の発展、課題について議論しました。

【事業費】 2. 自然体験指導者養成事業を含む

4. 小諸ツリーハウス プロジェクトの推進

安藤百福センターの森では、自然に興味のない人でも、「アート」をフックにして、豊かな自然にふれあってもらおうと、著名なデザイナーや建築家らのデザインした既存の枠にとらわれないツリーハウスを展示し、自然体験活動の更なる普及と拡大を図りました。

平成26年度は、新たに1棟が竣工し、現在6棟のツリーハウスが森の中に溶け込んでいます。

【事業費】 2. 自然体験指導者養成事業を含む

5. 自然体験活動支援ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウを満載しているホームページ「自然体験.com」は、学校完全週5日制が施行された平成14年にスタートしました。当財団では、「自然体験.com」を通じて、保護者や指導に携わる方々へ自然体験に関する情報を提供し、子どもたちの「創造力」や「自活力」を育む自然体験活動の輪を広げる事業を行います。

また、「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の募集や、支援団体の活動状況を伝える速報レポート、活動報告書も掲載しています。

【URL】 <http://www.shizen-taikken.com>

【事業費】 7,809,431円

■公3. 食文化振興事業

1. 食創会「第19回安藤百福賞」表彰事業の主催

「食創会」は、平成8年、「食創為世（食を創り世のためにつくす）」という財団創設者 安藤百福の理念に基づき、食品の基礎科学の研究奨励ならびに独創的・革新的な食品の生産加工技術の開発に対する支援・普及を通じて、世界の食文化の向上・発展に寄与することを目的に創設されました。

当財団が主宰する食創会「安藤百福賞」は、新しい食品の創造開発に貢献する研究者、開発者ならびにベンチャー起業家に贈られるものです。大賞や優秀賞のほか、平成18年度に新設された発明発見奨励賞は、大学等に所属する若手研究者や中小企業の開発者を表彰対象としています。

【後援】 文部科学省

【表彰者】

◆ 優秀賞（副賞：各200万円）

● 植村 邦彦 氏（独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 上席研究員）

「交流高電界殺菌技術の実用化」

●塩野 貴史 氏（キリン株式会社 R&D 本部 飲料技術研究所 主任研究員）

「世界初 カフェインゼロの緑茶飲料『やさしさ生茶カフェインゼロ』の開発」

◆ 発明発見奨励賞（副賞：各 100 万円）

●浅沼 誠司 氏（株式会社大麦工房ロア 代表取締役）

「栃木県産二条大麦を用いた大麦ダクワーズ等の大麦関連食品の開発と商品化」

●荻野 忠彦 氏（株式会社 IPMS 代表取締役）

村田 和久 氏（株式会社エディプラス 代表取締役）

「羽根が無いのに攪拌できる?? 遠心式攪拌機『エムレボ』の開発と食品加工機への応用研究」

●川井 清司 氏（広島大学大学院生物圏科学研究科 准教授）

「ノンメルティング製法による澱粉含有食品の糖質徐放化」

【表彰式・記念講演会】

開催日：平成 27 年 3 月 10 日(火) ホテルニューオータニ（東京）

来賓：石田 寿 氏（農林水産省 審議官）

記念講演：「おいしさは脳の栄養である」～脳を育む食～

茂木 健一郎 氏（脳科学者、ソニーコンピュータサイエンス研究所
シニアリサーチャー）

【事業費】 22,994,390 円

■公 4. 発明記念館運営事業

「人間にとって一番大事なのは創造力であり、発明・発見こそが歴史を動かす」という財団創設者安藤百福の考えに基づき、世界の食文化を変えたインスタントラーメンの誕生から、産業として世界に発展していった歴史を通じて、未来を担う子どもたちに発明・発見の大切さを伝え、「ベンチャーマインド」や「創造的思考＝“クリエイティブシンキング”」を育み、もって青少年の心身の健全な育成に寄与しています。

1. インスタントラーメン発明記念館（以下「池田記念館」）の運営

池田記念館は、平成 11 年 11 月にインスタントラーメン発祥の地・大阪府池田市に開館しました。平成 16 年 11 月には、展示内容と体験工房を充実させる拡張新築を行い、平成 25 年度は、年間来館者数が 70 万人を突破しました。

平成 26 年度は、来館者増に対応するため、施設や設備の拡充を目的とし、これまでより延床面積が約 500 m²増床となる第 3 期拡張工事を行いました。途中 1 ヶ月間の休館を挟みましたが、平成 27 年 3 月 20 日、拡張リニューアルオープンしました。

総合学習や修学旅行など学校教育の場として利用され、平成 26 年度は、全国各地より 626 校約 29,000 人の小中学生や高校生が来館し、体験型食育ミュージアムとして高く評価いただいています。

【施設概要】 所在地：大阪府池田市満寿美町 8 番 25 号

敷地面積：4,172 m²

延床面積：3,423 m²

【来館者数】平成 25 年度来館者数 641,719 人（累計来館者数 5,854,196 人）

※12/24～1/31 拡張工事のため休館

【体験者数】	チキンラーメンファクトリー	40,046 人
	マイカップヌードルファクトリー	416,987 食
【事業費】	203,000,091 円	

2. 安藤百福発明記念館（以下「横浜記念館」）の運営

横浜記念館は、平成 23 年 9 月、横浜市みなとみらいに開館しました。「創造的思考＝“クリエイティブシンキング”」をコンセプトに、安藤百福の言葉や思考、行動の本質を、現代アートの手法で表現し、世界に通じる新しい食文化や産業を生み出す原動力となった安藤百福の自由な発想、創造的な考え方を体験、体感できるミュージアムです。

発明・発見の楽しさ、食の大切さ、夢をもって自分で考える楽しさ、あきらめずに何かに取り組む大切さなど、子どもたちに伝えていきます。

平成 26 年度、1,251 校約 68,200 人の学校団体の利用がありました。

【施設概要】	所在地	横浜市中区新港 2 丁目 3 番 4 号
	敷地面積	4,000 m ²
	延床面積	9,883 m ²

【来館者数】	平成 26 年度来館者数	1,009,536 人（累計来館者数 3,648,809 人）
--------	--------------	---------------------------------

【体験者数】	チキンラーメンファクトリー	91,036 人
	マイカップヌードルファクトリー	802,459 食
	カップヌードルパーク	94,227 人
	ワールド麺ロード	462,337 食

【事業費】	490,084,263 円	
-------	---------------	--

■共通. 青少年の健全育成を目的とする支援事業

1. 「生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2015」（主催：文部科学省他）の支援

「持続可能なスポーツ環境の創出に向けて」をテーマに開催された「生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2015－人・スポーツ・未来－」（主催：文部科学省他）に協賛しました。

【開催日】	平成 27 年 2 月 6 日(金) ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING（岩手県）	
【協賛金】	500,000 円	

<収益事業等>

■施設賃貸および物販の業務受託

当財団が所有する発明記念館（池田記念館、横浜記念館）の一部を、物販コーナーとして賃貸します。また、池田記念館においては、物販業務を受託しています。

なお、本事業による収益の一部は、公益目的事業を行うために充当します。

【賃貸面積】	① 池田記念館	292 m ² （館全体の延床面積に占める割合：約 10%）
	② 横浜記念館	115 m ² （館全体の延床面積に占める割合：約 1%）

【事業費】	35,504,840 円	
-------	--------------	--

以上